

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 博士前期課程		
氏 名	松島 寛知	学籍番号	0851029
論 文 題 目	沖縄本島地域における土地利用規制の評価に関する研究		
<p>要 旨</p> <p>本研究は、戦後に独特の土地利用形態に発達した沖縄本島地域を研究対象地域とし、GISを利用して地域単位および市町村単位で土地利用特性を明らかにする。そして、土地利用規制の把握を行ったうえで、デジタル地図上で判断される市街化の側面から、市町村単位で土地利用規制と実態との間の乖離を解析して、土地利用調整の必要性な地域を把握することで、市街化の抑制という視点に限定して土地利用基本計画の土地利用規制の評価を行うことを目的とする。結論は、以下の3点に要約できる。</p> <p>(1) 土地利用の特性については、那覇市近隣の地域において都市的土地利用傾向が強い。また、宜野湾市や、嘉手納町、北谷町については広大な米軍基地の存在が土地利用に影響を及ぼしている。</p> <p>(2) 土地利用規制の特性については、沖縄本島北部地域は、農業・森林を優先とする土地利用規制となっており、都市地域に着目すると都市専用の土地利用規制の面積は10%以下と低い。また、沖縄本島中部地域は、主要国道沿いに位置する市町村で都市専用の土地利用規制の面積が90%前後と高い。沖縄本島南部地域は、那覇市で都市専用の面積がほぼ全域となっている。一方、沖縄本島南東部の市町村では、農業を中心とした土地利用規制が行われている。</p> <p>(3) 市街化に着目した土地利用規制の問題点は、名護・本部都市計画区域の都市計画白地地域では、海岸部の主要国道沿線地域の農振白地地域との重複地域で土地利用規制と実態との間の乖離が進行しており、これらの地域では用途地域制度を新規に導入する必要がある。中部広域都市計画区域の都市計画白地地域では、農振白地地域との重複地域で土地利用規制と実態との間の乖離が著しく進行していたため、これらの地域では用途地域制度の再検討・新規導入、線引き制度の新規導入が必要である。また、那覇広域都市計画区域では、特に那覇市の南部と東部の近郊の市町村の市街化調整区域と農振白地地域との重複地域、糸満市のみの市街化調整区域と自然公園普通地域との重複地域において、線引き制度を再検討する必要がある。</p>			